



## あきらめない 津波被害から立ち上がる園芸農家



撮影：産経新聞

宮城県岩沼市で津波の被害にあった園芸農家の菅原龍也さん(39)の家では、色とりどりのパンジーやビオラ、ノースポールなどのポット苗の出荷が1週間ほど前から再開されている。津波でハウス8棟が壊滅し、春向けに育てていたマリーゴールドなど約8万～9万鉢が流されるなど大きな被害を受けたが、「志半ばで諦めたくない」という思いから6月ごろからハウスを建て直し、新しい種をまき始めた。今年も風評被害を避けるため、腐葉土を使わないなど例年とは違った育て方になり苦労したという。「なんとか彼岸の出荷に間に合っただけよかった」と秋晴れの下、菅原さんは鉢の出荷作業に追われていた。

(2011年9月20日 産経新聞掲載)



撮影：河北新報

## 希望の花、鮮やかに 岩沼・震災後初めて花苗の出荷

東日本大震災の津波で被災した宮城県岩沼市沿岸部の園芸農家で、震災後初めて花苗の出荷が始まった。畑では赤や黄、ピンクなど色とりどりの花が咲きそろった。

出荷再開にこぎ着けたのは同市寺島押切の専業農家菅原龍也さん(39)。自宅前の畑25アールでパンジーやビオラ、ノースポールなどのポット苗7万鉢が秋の出荷時期を迎えた。

菅原さん宅は海岸から約1キロ。津波は自宅1階の天井付近まで押し寄せ、出荷直前だった花苗約8万鉢やハウス8棟、農業機械、トラック2台が流された。

菅原さんは折れそうな気持ちを奮い立たせ「秋には出荷を再開させる」と決意。4月中旬から、がれき撤去や整地作業を進め、ハウス3棟を再建して7月に種まきをした。苗の育成に使う地下水や土の放射能検査を行い、安全性も確認した。菅原さんは「ハウスの数は減ったが再び出荷できて希望が持て、ほっとしている。地域の人にも花を見てもらい、復興の弾みにしてほしい」と話した。

(2011年9月20日 河北新報掲載)